

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会(高校生の部・南部会場)

1 日時 令和 7 年8月6日(水) 14:00～16:00

2 場所 県民健康センター 中会議室

3 参加者 15名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部副参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

(依田 高校改革統括監)

それでは最初に簡単に自己紹介とご自分のこの件に関してのご意見があったら、伝えていただければと思いますので、よろしくお願いします。

(A)

よろしくお願いいたします。

私は一昨年の9月から新聞部に入って、共学化の話をいろいろと担当させていただきました。その中で、依田さんとかにお話させていただくこともあったんですけども、今回、部活も引退の時期になりますので、卒業、引退する前に話をしたいと思い、本日参加したところです。

共学化は人権的に制度の中で関心が高い話だなと思いますし、どのような話し合いが進むかっていうところで、県教育委員会に対するイメージだったりとか、各学校に対するイメージだったりってところが変わってくる部分があるかなと思うので、学校として、もっと言えば、県教育行政として共学化の問題をどう考えていけばいいのか、どう捉えているのかというところを県教育委員会の皆さんと一緒に考えていければいいかなというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(B)

今までできる限り、意見交換会だったり、アンケートだったり、署名提出だったり、全てに参加して、立場としては主体的な共学化には反対という立場を取ってきました。いろいろな意見を持っていて、それをお伝えしたいということで、今回参加しています。よろしくお願いします。

(C)

私自身としましては、共学化には少し反対なんですけれども、社会の流れ的にはとてもしようがないのかなと感じております。後戻りのできないような、このような難しい決断に対して、行政

の側はどのように意思決定をしていくのかという過程に興味があって参加しました。よろしくお願いいたします。

(D)

私自身としては、県教育委員会の主体的に共学化というところに反対という立場です。理由は、別学校は時代の流れ的に共学化という話が出ていましたが、男女共同参画社会の中にも別学が有意義なところがあるのではないかと思います。

例えば共学校の音楽系部活とか見てみると、女子の方が多い傾向にあるんですね。男女関わらず異性の方が多いい部活に入ってくるっていうのは簡単なことではないと思います。別学校においては、そういうハードルは存在なくて、これまで男性、又は女性が多い傾向の業界に、逆側の性別の人が入りやすくなるんじゃないかなと思います。

それはむしろ男女共同参画社会に寄与する形になると思います。それが私が男子校に入学して感じたメリットの一つです。こういうような素晴らしい環境を、公がその存在価値、意義を保証してほしいと思うので、公立の別学校には残してほしいと思っています。以上です。

(E)

私は現在令和7年度の前期の生徒会長を務めております。私はこの後、述べる意見は生徒会を代表する意見ではなく、あくまで個人として話させていただきます。

私は県外の中学校を卒業し、自分の学校の魅力に惹かれて、県外受検を中学3年生で決めて入学しました。その高校が共学化を経てなくなってしまうというのは少し寂しい思いもあります。この良さを後輩らに残すために、今回参加させていただきました。よろしくお願いします。

(F)

自分の学校に入学してからは、自然とどんなことにも楽しむことができるようになりました。自分を変えることができるのが別学校だと思います。それを共学化でなくしてしまうのはもったいないと思い、今回は参加しました。

(G)

私も立場としては共学化というのは反対であります。別学校の良さを知った今、別学校が必要だと思います。別学校の良さの一つが、異性がいる場よりも委縮せずに、積極的な姿勢を取ることができます。もし男子校に僕は通っていなかったら、この場に立って、積極的に、意見を発してこういう気になっていなかったかもしれません。そういった人々の居場所が一掃されて、男

女共同生活を強いられてしまうというのは非常に本人にとってもつらいし、もったいない思いもあるので、断固やめていただきたいなと思っています。

(H)

私は、今、共学校に通っていて、共学化すると知ったとき、共学校に通うものの意見や考えも取り入れてほしいと思い、参加させていただきました。

共学化については、いくつかは残すべきだと考えております。理由といたしましては、性別にとらわれずできる部活があったりとか、学校の文化がとてもよく残っているものがあると感じています。

共学校にはできない、性別にとらわれない活動ができなくなってしまうのは、少し寂しい思いがありますので、反対という考えです。

(I)

私は共学化には反対です。私が高校に入る前の中学時代では、異性と話すことはあまり得意ではなかったのですが、別学校に入ってから活発に話せるようになってきました。共学ではなく別学校でしか得られない積極性というものがあると思うので、このような点から別学を残してほしいと思います。

(J)

僕の考えといたしましては、別学維持を求めるとことです。先日、僕は吹奏楽部コンクールに行った際、その時の投票用紙に男らしさとエネルギーがあるというふうに書かせてもらいました。それってやはり別学校だからという一つの利点ではないのかなと思います。本日はよろしくお願いします。

(K)

私は共学化には反対の立場を取らせていただきます。理由としては、共学化するという話を学校から聞いた時に、理由として別学に通っている場合、将来的に異性との関わりに何かしらの障害が生まれてしまうのではないかという考えを持っている方がいるという話を聞いたんですけど、本来の雰囲気としましては、異性がないからこそ、校外活動とかでももちろん同学年の方がいない場合もありますけど、異性と何かしらフィールドワークを行ったりとか、近くの男子校の方と校外活動を通して、関わりを持つことができます。女子校だからといって異性と全く関わらないというわけではないし、積極性が失われるというわけでもなくて、むしろ個性が磨かれていく場として最適なのではないかなと思います。私の学校はそういう別な可能性を生み出せる場所

なんじゃないかなっていうふうに感じているので、共学化は反対という意見です。よろしくお願いします。

(L)

別学の良さをお伝えしたいと思い、今回は参加しました。本日はよろしくお願いします。

(M)

私は共学化に反対であります。

まず最初に申しておきますと、私の意見では誰でもヤジを飛ばしていただいて構いません。また、県教育委員会様に申し上げた質問は最後にまとめて御回答願います。私の意見としましては、共学反対の理由として大きく分けて三つございます。一つ目の反対理由としては、募集人数より出願者人数の方が多いいということが挙げられます。

令和 7 年度埼玉県公立高等学校における出願者数、令和 6 年度埼玉県公立高等学校における出願者数、令和 5 年度埼玉県公立高等学校における出願者数、令和 4 年度埼玉県公立高等学校における出願者数において、出願者数と募集人数を、男子校、女子校それぞれ計算しましたところ、男女合わせておよそ 4,500 人の出願に対して、募集は 3,800 人ほどしかないということが分かりました。このことから言えることは明らかに、出願者数の多いということです。ここで皆様に考えていただきたいことが一つありまして、世の中の風潮に合わない学校なのであれば、出願者数よりも募集人数が絶対多くなるはずなんです。でも現状としては 4 年連続、過去まで戻ればもっと長い年で、出願者数の方が募集人数より多いということが予測されますし、実際データとしてなっております。ということは、時代の流れとしては間違っていないものであるから残すべきなんです。

また、県教育委員会としてはどのようなデータを基に共学化が必要であると考えたのか、誰かからの勧告を除き、具体的な数値を基にお答えいただきたい。

二つ目は学部の問題でございます。確かに男女共同における上で、男子校にしかない学部はないんですけど、女子校にしかない学部は確かに実際でございます。しかし、これを理由にして共学化というのは早計かなと私は考えます。なぜなら、入学試験の平均点が低い学校で、普通科であり、倍率が1倍を切っている学校がございます。そこを何校かまとめて統廃合をして、余った予算余った校舎で新しいその女子校にしかない、学部を共学校だったり、男子校で作る。又は、倍率を1倍を切っている学校に新しく普通科の枠を削って、40 人ぐらいの 1 クラス分を設けるなどをするのがまず先にやるべきことなのではないか。また、女子校、男子校を共学化する上でも、トイレだったり、更衣室であったりの製作費用がかかります。ここに関しては予算がいくらぐらいかかる試算が出てくるのか、数値をお願いいたします。

三つ目、これが一番重要なことになります。正確な数字は、申し訳ないのですが、調べたところ出なかったんですが、埼玉県では、およそ 5 万から 6 万人の中学 3 年生がおります。そのうち、毎年毎年調べていくと、4, 500 人ほど、パーセントでは、男女合わせて 9%ほど、女子校又は男子校に行きたいという人がいます。異性が苦手や同性だけがよい、共学校は嫌だ、など様々な理由をもとに共学校ではなく男女別学校に行ってる人もいます。中学 3 年生っていうのは、今後の日本の未来を背負う人たちで、その人たちの共学化をするということは、その男女の男女別学校に行く 9%の思いを潰すことになります。これが教育の形としてあっていいのか。上からの圧力によって変わっていいのか。そういうことはどうお考えなのか。そういうことを考えまして、県教育委員会としては少数派の意見を押し潰さないということは、考えたのか、はいかいいえでお答えください。私の主張は以上となります。

(N)

自分は生徒会の人間です。自分の高校の生徒会は、中立の立場で今やらせてもらってます。理由としては、自分の高校の全員意見を取り入れようとしますと、別学にしても、共学化にしても、どちらにしても反対派が生まれてしまうため、今は中立の立場でいます。ただ、この意見交換会でどちらかが納得できるような意見が出れば、それはもう素晴らしいと 생각합니다。個人の考えとしては反対派です。自分の高校っていうのは近隣の女子校とよくセットにされることがあるんですけど、近隣の女子校は駅から徒歩 1、2 分なんですけど、自分の高校は駅から 30 分かかります。どちらも共学化すると、近隣の女子校の方が人気が出ると、自分の高校はとても不人気で多分、倍率的にも下がってしまう。そうなってくるとだんだん、自分の高校は行きたかったんだけど、学力が少し達していない人たちも、それが悪いこととは言えないですけど、来てしまうと、そうするとだんだん学力が落ちていって、自分の高校の校風である自由っていうのが少し曲解されてしまって、自由な校風がだんだんと制限されてしまうような形になってしまうのではないかという不安もありまして、共学化には反対という立場で今個人としてはあります。今日の話し合いでは、生徒会長だからといって来てるわけじゃなくて、個人として来ています。共学化には反対っていうのは生徒会の立場としてではなく、個人の立場として、今日話をさせていただきます。

(O)

僕もA君と同じように、新聞部として、一昨年の、苦情処理委員の勧告から今年くらいまで、引退するまで、いろいろ共学化について取り上げてきて、あくまで新聞部としては、賛成派も反対派もどちらの意見も中立的に取り上げるっていうことを目指してきました。

今回は 3 年生で、もう引退も近くて、共学化に関する、いろいろな議論とか、そういうのを参加できる最後の機会だと思います。ここからはあくまで新聞部じゃなくて、僕個人としての意見な

んですけれども、私としては、一度、別学校の価値について、もう一回再考してみるのが必要だと思います。

苦情処理委員は、別学校に入りたいのに、入れない性別の生徒に対する、差別になってるのではないかと、そういう意見があったと思うんですけども、僕はむしろ、ここまで、日本の高校に占める別学校の割合は、多分10%に満たないと思っています。本当に共学校だと、3,400ぐらいある高校の中で、別学校は本当に数えるほどだと思うんです。

でも、実社会では、やっぱり未だ男女共同参画が、十分実現されてるとは、管理職の割合とか、そういうところを見てもまだ言えないんじゃないかなと思うんですね。だからそんな中でただ単に別学校を共学にすることで、男女共同参画に大きく近づくというのは、なんかちょっと違うかなと思っている。

別学校っていう片方の性しかないっていう環境の中で、例えば、ジェンダーバイアスは共学校だと、やっぱりどうしてもどっちの性もいる中で、そういうのを持ち込まれてしまうと思うんですけれども、別学校だとそういうジェンダーバイアスを取っ払って、例えば女子校でも、女子がリーダーシップを取らなきゃいけないし、男子校でも、例えば女子がやるっていう固定観念が持たれてるようなことを、男子がやらないといけない。

そういう点ではむしろ、一人の人間としてジェンダーバイアスにとらわれることなく自立した人間っていうものを生み出せる教育として、別学は価値があるんじゃないかなと思う。その点では、一度その辺のことをよく考えて見た方がいいんじゃないかなと思っています。

(依田 高校改革統括監)

皆さんにいただいた意見の中から、私の方でいくつか話題を提供させていただいて、意見を交換しながら、理解を深めていきたいと思いますので、ポイントを絞って話をまたさらに聞いていきたいと思います。

何人かの方が男子校、女子校は男女共同参画社会を推進する中でも意義がある。今、Oさんからジェンダーバイアスの話が出ましたけれども、そういうことにおいても、別学校の方が共学に比べて優位性があるのではないかなという趣旨だったと思います。男女共同参画社会を推進していく上で、男女共同参画社会に資する人材の育成も目指して高校教育も進めていくことについては反対の方はいらっやらないと思います。その上で別学の優位性について、具体的なご意見をいただきたいと思います。

(B)

さっきどうしてもこれはっていう意見を伝えるっていうところかと思ったのですが、簡潔にということだったんで、伝えたいこと伝えてないんですが、今話してもいいですか。

(依田 高校改革統括監)

いいですよ。

(B)

私は、県教育委員会が進める主体的な共学化に反対の立場を取ります。

県教育委員会が進める共学化方針について、私は疑問と懸念を思っています。大きく三点に集約されます。

第一に説明責任を果たされていないことです。「措置報告書」「魅力ある県立高校づくりの方針」には、共学化の方針を「主体的」にするという結論の明確な根拠や客観的なデータは、ほとんど見られませんでした。文章は抽象的で解釈次第でどうとでも取れる内容となっておりました。また、これまでの意見交換会などの場でも、こちらの問いに対して確信を避ける返答や話題のすり替え等が見られました。発言と報告書の内容が一致しない点、発言同士が矛盾する点もありました。よって説明責任が果たしてるとはいえないと思っています。

第二に進め方が適切でないということです。当初は女子差別など理念的な問題が中心でしたが、途中から高校再編だったり魅力ある高校づくりといった別の論点が追加され、議論の軸がすり替えられてしまっています。これらは本来苦情処理の過程でなく、別の場で議論されるべきものであったはずです。さらに主体的に共学化を行うという結論が先に出された後に、地域や性別による教育機会の格差拡大が今後起こるのではないかということについて、地域、学科、高校など具体的な予測が示されて検討が始まりました。

本来将来の状況を具体的に明らかにしてから、その手段として、主体的な共学化が検討されるべきであったはずです。結論ありきで理屈は後からつけるような進め方に大きな疑問を感じています。

第三に生徒の意見が政策決定に反映されていないことです。

県教育委員会は県民の意見を丁寧に聞いていくと説明していましたが、実際に中高生から寄せられたアンケート、署名、意見書を見る限り、共学化に反対する声が多数でした。にもかかわらず共学化の推進を主体的にするがどうかについての結論に反映されませんでした。一方で、県議会最大の自民党の考えに結果的に沿う形で主体的な共学化推進が進められています。

大多数の生徒には選挙権がありません。議会に直接働きかける手段がない中で、意見交換会、署名などを通して声を上げたとしても、結論に影響を与えたことは、今までできる限りの会議に参加した身としては一度もないと感じています。若者や子供の意見を尊重するというこども・若者基本条例の趣旨に反しているという指摘をよく見かけます。県教育委員会が真に生徒の声を聞く姿勢を持っていたとは到底思いません。以上の三点より、私は主体的な共学化に反対の立場を取ります。説明責任をはたさず、結論先に決め選挙権を持たない私たち生徒の意見を軽視する、そのようなやり方で、多くの生徒の進路や生活に深く関わる重大な決定を進めるべきではあ

りません。さらにこうした策には多額の公費がかかります。なおさら慎重であるべきです。まずはこれまでの意思決定の過程を明らかにし、情報を自ずから開示すること。そして結論ありきではなく共学化について議論をやり直すこと。これを強く求めたいと思います。

繰り返しますが、我々中高生の大多数ほとんどは選挙権がありません。ですから、我々の意見は県教育委員会によるあのアンケートで、あの署名で直接表明したんです。県議会に我々の意見はありません。しかも、あれは大人による間接的な意見です。生徒による直接的な意見と真逆である主体的に共学を推進するという結論は、生徒の意見を見做していることと同じと捉えています。教育行政としてそれで良いのでしょうか、というものを思っております。よって、議論のやり直しを求めます。以上です。

(依田 高校改革統括監)

先ほど、私の方で、皆さんの話を聞いて、いくつかポイントを絞って、意見交換をしようと言ったのですが、Bさんから御意見、質問をいただきました。もし、皆さんもBさんのように県教育委員会に対して御意見や質問をされたいというならば、とりあえず私の提案は後に置いて、皆さんと意見交換をしていくことに切り替えても構いませんが、どうでしょうか。

皆さん、県教育委員会に対して御意見があるようなので切り替えましょう。私の方で提案するのはやめて、皆さんの方の話を中心に、県教育委員会と皆さんとの間で意見を交換していくこととします。

今、Bさんから何点か意見があったけれども、まずはその件で、皆さん、意見交換をしていくのでいいですか。Bさん、この中で、今日のテーマとしてどうしてもやりたいことがあれば、絞っていただきたいのですが。皆さんと話をするテーマとしてはどれがいいだろう。

(B)

私としては、これを県教育委員会の議論している方々に伝えていただきたいというものがあるだけなので、ここで意見を聞きたいということでは、はっきりはないのですが、挙げるとするのであれば、意見が反映されていないことなのかなと思ってます。

(M)

先ほど言った意見が反映されてない、確かに最もだと思うんですよ。どこを見ても私たち生徒の声を少なくとも検討をしましたよ、上の方で目視して確認した結果の回答がこれですよという記述がどのネットを探しても見当たらないんですよ。県教育委員会はそこの生徒の目を単なる下の動きとしか見てないのか。それとも目を通して何か思ったのか、まずそこについてどう思ったのかっていうことをご回答願いたいなと思っています。

(依田 高校改革統括監)

中学生や高校生の意見をどう反映したのかということについて、県教育委員会の考え方も含めて話をするということでもいいですか。

今、BさんとMさんの意見はありましたが、このことについてほかに意見がある方はいますか。

(F)

2024年 8 月に行われた意見交換会において、各地域で性別にかかわらず、生徒が学びたい学びを学ぶ機会を公平に平等に確保する必要があるっていうのを、別学校には別学校の意義があると捉えているという発言がありました。また、別学・共学の選択肢よりも大切なのは学びの選択肢だと思っているという趣旨の発言もありました。学科の学び、別学校での学びの意義をどちらとも認めていますが、別学共学の選択肢よりも大切なのは学びの選択肢であるとする根拠は何でしょうか。

(依田 高校改革統括監)

質問会だけになってもいけないと思っています。今のFさんのお話は分かりました。BさんとMさんが今お話になられた子供の意見を反映する、中学生、高校生の意見を県教育委員会はどう反映したのかということについての意見がある方はいますか。

(A)

どう反映したのかって、すごいアバウトではあるんですけど、個人的にはどう反映したのかっていうところがすごくこう疑問点というか、論点として上がるのはその県教育委員会が最終的に報告書を作る過程でどういような議論というか、プロセスを踏んで、あの文章を作ったのかというところが、見えてこないなっていう部分がこう大きい、言ってみればちょっと不信感のようなものがあるのではないかなっていうふうに個人的には感じています。もちろん県教育委員会の教育委員の方が議論するところに一般市民が入るというのは難しい話だと思うんですね。なんですけど、例えばその議論の過程でどういった意見があって、例えばこのこういう部分については県教育委員会の方で拾いましたよとかっていう部分が何か、議論のプロセスが見えれば多少どういふふうに反映されたのかみたいなものが見えてくる。

そうすると、私たちとしてもここを反映されたけど、ここが反映されてないんだったら、どうしてこっちを選んだんですかみたいなもっと先の議論ができるので、どういう議論のプロセスを踏んでいったのかっていうところが見えるっていうところが第一に大事なんじゃないかなって個人的には思います。

多分全部公開するのは難しいと思うので、例えば一か月後ぐらいに主な発言みたいな感じでいくつか出すとかいろいろやり方あると思うんですけど、何かしらそういう議論のプロセスを見

えるようにする。全部じゃなくて、少しでも見えるようにするっていうのはこう全く反映しないっていうふうを感じる側からすると、多分、良いのではないかなっていうふうに個人的には思います。

(G)

加えてですね、埼玉県にこども・若者基本条例っていうものが存在してると思うんですけど、こちらにはこども若者からの意見の聴取及びその他の必要な措置を講ずるときちゃんと明記されてるんですね。こちらの条例の内容に対しても、今の現状のこう、意見が無視されている、反映されていないということが全くもって反していると私は考えているんですが、その部分に対しての考えもお聞きしたいです。

(M)

まず、県教育委員会の方からのお話があって、今、意見交換会ではなく、質問会になっているという話があったんですが、当たり前じゃないですか。それだって、こっち側としては反対又は少し反対か学校としては中立の立場。それなのになんで賛成側からの、指示というか、話を受けて意見交換会しないといけないんですか。我々は、私だけかもしれないですが、あくまでこうだから反対だよって言うてるのに、それをここで議論しましょうといっても、反対派なんだから意見が出ないのは、決まってるじゃないですか。それに対して適切な説明を求めるっていうことが意見会じゃなかったら、どうなるのか。あくまで私たちが出した、質問に対して県教育委員会から返ってきた。それに対してもう一回私たちがその出てきた意見をもう一回再検討して言ったら言い方がよくないですけど、もう一回そこで出た話題を改めて話し合う。これがこの反対派、一般的に言えば反対派、賛成派、これの正しい意見の交換の仕方なんじゃないんでしょうかというところをまず質問として挙げさせていただきまして。先ほどの質問にかぶってしまうんですけど、Bさんも言った通りないんですよデータが。Bさんも G さんも、言っていましたが、データはないんですよ。

データがないのになんで進めないといけないのか。それはポピュリズムとか単なる大衆派の意見の押し通しじゃないですか。それに対してもどう考えてるのか。ポピュリズムだったり、一方的な圧力ということに対して考えはないのか。賛成派はそういう考えがないのかということについてお聞きしたいのと先ほども言いましたが、当たり前ですよ、反対派が多いんですから。ここで意見を出してください。これに対して意見ありますかって県教育委員会が言っても反対なんだから、あーそうだよ、で終わりますよ。それに対しての私たちがあーそうだよ、ではなくて、県教育委員会がどんな見解を持っているのかということに対しても、できれば細かくあの開示できる限りでお答えしたいと思います。以上です。

(C)

私としましては、県教育委員会さんたちを責め立てるつもりはなくて、今回、反対派しかいない感じなんですけど、私としては共学化に反対というわけではないので、皆さんに問いかけたいんですけど、現在、埼玉県の東大の合格者とか、医学部の合格者に関しては浦和高校がやはり抜きん出て一番良いじゃないですか。そこに女子が入れないっていう状況は、普通に見たらおかしいと思うんですよ。公共的なお金の使い方として。そこをどう考えて反対派としての意見を送っているのかというのを皆さんに聞いてみたいなと思って今日来ました。

(依田 高校改革統括監)

今日は皆さんと意見交換をする中で、お互いに理解が深められればと思ってやっています。皆さんに私が言ってることに賛成してほしいとか、説得に応じてほしいとかっていう場ではないと思っています。県教育委員会はこの考え方でいいよということは私から述べさせていただいて、それに対してまた意見があればお話いただければ理解がお互いに深まるだろうと思っております。

議論があまり拡散しないうちに、県教育委員会の考え方をお話します。アンケートの結果や意見聴取の内容についてどう反映したのかというところです。Aさんからそのプロセスの話もあったかと思います。報告書の中には、アンケートの結果や意見聴取の内容について、8ページぐらいしかなかったかと思いますが、補助資料としては、大分膨大に資料として添付しています。

それについては本当に細かく、教育委員の全員がしっかり目を通していただいています。アンケートでは、記述の部分がありましたが、私は全てに目を通していただき、ある程度、類型化をしておりますが、全部教育委員に伝えております。県教育委員会の会議の中でも当然それについて、意見を交わしておりますし、県教育委員会の会議の外でも勉強会という形で実施しております。それについて、Aさんの方からプロセスが見えないという話もありました。

確かに全部見えるようになっておりません。勉強会の資料については、公開の文書、行政文書ですし、県教育委員会の会議の内容についても、情報公開に適さない部分を除いて、全て公開をしているものですので、可能な限り努力をしているつもりです。ただ、それでも納得がいかないっていう声はあるかと思いますが、不十分だという御意見については受け止めさせていただければと思いますが、今回のことについては、県教育委員会では開かれた議論をしたつもりではおります。

今日の意見交換会についても、なるべく開いた形で目に触れるようにしたいと思っておりますので、皆さん方にご理解もいただきたいと思います。

今の私の話についていかがでしょうか。

(E)

Mさんが一番聞きたかったこととして間違えていたらごめんなさい、議論プロセスについてAさんの話があって、Mさんは報告書とかで結果だけが記載されてて、結論にいくプロセスが分からなかったっていう事かと思います。

依田さんがその議論、そのアンケートなども全部目を通してくださったとおっしゃってくださいました。そこはありがとうございます。

疑問があるんですけど、埼玉県に伝えたという発言がありましたけど、どのような内容を伝えたのかっていうのと、Mさんもおっしゃっていたように、どのような議論のプロセスを経て、今回のような結果に至ったのかというその回答が伺えれば幸いです。

(依田 高校改革統括監)

埼玉県に伝えたのではなく、県教育委員会の中で共有をしたという意味で申し上げました。教育委員に対して、県教育委員会の事務局職員から伝えました。先ほど言ったように勉強会もありましたし、教育委員会という、公式な会議もありました。

県教育委員会の会議も複数回実施しました。そこでは報告、協議など、様々な議題の出し方で、複数回行ってます。勉強会も複数回行ってます。県教育委員会の資料についてはホームページに載せておりますので、中身の議論の内容も可能な限り分かるようにしてます。

勉強会についても、行政文書として、資料が残っておりますので、公文書開示請求で対応できます。令和6年1月から報告書を提出した令和6年8月の下旬まで断続的にいろいろな方の意見を聞いたり、アンケートを取ったり、調査を行ったりして、その都度実施しているので多種多様です。私としては、頂いた意見やアンケートや調査の結果を私の主観を交えないで教育委員に伝えております。その上で教育委員の中で検討いただいたというのが、令和6年1月から8月までの間のプロセスです。

(E)

わかりました。

(J)

先ほど、目を通していただいたりとか、いろいろな会を設けていらっしゃることは私どもはよく分かったんですけど、その中で教育委員さんがそのアンケートの結果を見て、どのようにお考えなのかっていう県教育委員会さんのご意見を聞きたいなっていうふうに考えてるんですが、それは会の趣旨に合っていない感じですかね。

(依田 高校改革統括監)

結局それが報告書の内容になってきていることなんです。県教育委員会の中では、教育委員一人一人が話をするわけですが、県教育委員会としての見解は、最後一つにまとめた結果、それが報告書になったことなんです。それまでの一人一人のプロセスの中の意見は、県教育委員会の会議の中のやり取りを確認いただくことになります。

(B)

すみません、あの僕が意見を最初に言わなかったことで、大分趣旨が分からない方向になってしまって、本当に申し訳なく思っています。

(依田 高校改革統括監)

大丈夫ですよ。

(B)

会議の趣旨を私は間違えて理解してしまっていたということだと思うんですけど、この会議で意見を聞いたことによって、県教育委員会の主体的な共学化を推進するっていうことの、この方針は基本的には変わらないということによろしいですか。

(依田 高校改革統括監)

今日のこの意見交換会で出た御意見も今後の参考になっていくものなので、変わる、変わらないということは、この場で申し上げることはできないんですが、私としては、この場では県教育委員会の考え方について述べさせていただきますが、皆さんの御意見は、全部教育委員にストレートにお伝えしようと思ってます。

その結果、教育委員がどのように考えるかというところは、その後の話になります。

(B)

意見を集めてるってことは何か進めるのにおいて情報がほしいということなんですけれども、県教育委員会が今議論してるのは、主体的に共学化するというのは決まってる上で、その上で合意を得ずに共学を推進するのは決まった上で、その中でどう学校を配置していくのかの中で情報がほしいのか、そもそも主体的に共学化を進めていくってところの議論において情報がほしいのか、それはどちらの方ですか。

(依田 高校改革統括監)

両方です。県教育委員会が主体的に共学化を推進するということから、こういう意見交換会を実施しているわけですが、皆さんの意見を聞いた結果、主体的が取れるとか取れないとかは、今後、教育委員がどう判断するのかということになります。

(B)

主体的に推進ってというのは合意を前提としない推進ということでしたよね。

(依田 高校改革統括監)

県教育委員会は、以前から共学化を推進するという考え方でした。約20年前に出した報告書には、県教育委員会は、共学化を推進するという考えでしたが、各学校が共学化を推進することになった際に、それを県教育委員会は支援するという立場でした。

よって、共学化した学校もこれまであったのですが、現在残っている別学12校については、これまで、学校において共学化を推進するという検討がされてこなかったもので、県教育委員会も特に学校を支援することはなかったのです。今、Bさんが、私に対しての主体的に共学化を推進するというのが、変わるのか変わらないのかということで、お話がありましたが、共学化を推進するという考え方は、以前からそうだった、だから変わらないというように申し上げるつもりはありません。

今後どうなるのかというのは、意見交換をしながら、皆さんの意見を参考に、県教育委員会全体として考えていくことになります。皆さんが共学化を主体的に進めるべきではないという意見をお持ちならば、ぜひおっしゃっていただいて、それを教育委員に県教育委員会の会議の中で主観を交えずに共有をさせていただきます。

(M)

何点か疑問があったんですけど、県教育委員会に私たちの意見を伝えるって言ったじゃないですか。そしたら意見交換ではなくて質問会じゃないですか。私たちは、各個人だったり、生徒会でこう思ってますよといっていて、それを県教育委員会に伝えてくださいねって話なのに、意見交換会なんですよ。おかしくないですか。矛盾が生まれてませんか。だって、私たちの意見がどうかじゃなくて、それは私たちの中にも話し合ってくださいってことになったじゃないですか。でも、私たち一個人と違うのに、では、それをまとめました、はい、え、じゃないですか。あくまで質問会になってしまいますけど、なんでもいいんですけど、県教育委員会に対して、県教育委員会の事務局に言う、それを県教育委員会に持っていく。プロセスがなんか二つ今見えたんですよ。

(依田 高校改革統括監)

Mさんの意見は分かりました。質問をしたいんですね。Mさんは。

(M)

質問をしたいということではなくて、矛盾があるんですよ。

(依田 高校改革統括監)

矛盾があるという意見ですね。ほかの人の意見はどうでしょうか。

(N)

意見交換会の趣旨が分かってなくてですね、意見交換会というのは、教育局と我々の学校の生徒が意見を交換するのか、それともこの学校の生徒と学校の生徒が意見を交換するのか、それとも両方なのかというところでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

私たちは、一人一人個人として参加をしていただいていると思っていますので、高校生と話をしてと思っています。

(N)

さきほどのCさんが出したトピックに対して、我々の学校が議論するっていうのではないということでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

学校に持ち帰ってくださいとは思ってません。あくまで個人として今日は出席をしていただいています。私からは県教育委員会の考えをお伝えして、それに対して反対意見、賛成意見、いろいろな意見を出してもらって、その意見を県教育委員会全体で共有をする中で、今後の県教育委員会の取組の参考にさせてもらおうと思っているわけです。

(N)

さっき進めていた我々がトピックを出して、我々の意見をこう話し合うってっていうのは趣旨として合ってるんですか。

(依田 高校改革統括監)

合っていると思います。誰が出してもいいとは思っていますので、私が出すことも可能ですし、皆さんが出していただくことも可能だと思っています。

(N)

はい、分かりました。では、トピック変えてもいいですか。

(依田 高校改革統括監)

とりあえず、今の話題はいいですか。先ほど、Fさん、Cさんなどいただいていたものがあるから、先にその話をしてからでいいですか。

まずFさんから。

(F)

2024 年の 8 月に行われた意見交換会で、各地域で性別に関わらず、生徒が学びたい学びを学ぶべき機会を公平に平等に確保する必要があるっていう発言と、別学校には別学校の意義があると捉えているという発言がありました。また、別学・共学の選択肢よりも大切なのは学びの選択肢だと思っているという趣旨の発言がありました。学科の学び、別学校の学びをどちらとも認めていますが、別学・共学の選択肢よりも大切なのは学びの選択肢である、そうする根拠は何でしょうか。

(依田 高校改革統括監)

県教育委員会の別学・共学の考え方、男女が共に学ぶことには意義があるとの表現を報告書の中ではしていますが、それについてお話します。

まず、県教育委員会の考えとしては、男性用の教育と女性用の教育というものを考えていません。男性も女性も同じ教育内容を実施したいと思っています。そうした時に、男女がそれぞれ分かれて学ぶと、自然とその学びが男用の学びとか女用の学びになってくる傾向もあるかもしれないと考えています。あるいは、少なくとも一緒に学んだ方が男の人と女の人で同じ学びができるのではないかと考えています。だから、別学の意義がないという話ではありません。別学には先ほど皆さんからお話いただいたように、様々な良いところがあると思っています。

そこで、今Fさんが言った男子と女子との教育機会の平等とか学びの選択肢というところは、例えば男の人しかこの教科が学べないとか、ということにならないように、しなければいけないと考えています。それは教科だけではなく、あくまでも本人の能力と希望に応じた学びの選択肢があるようにしたいと思っています。自分の能力に合った学校の選択肢と農業とか工業とかそういう学びの内容、それが男女で平等である必要があって、県教育委員会としては男性用と女性用に分けた教育を行っているわけではないので、男女がともに学ぶ方が意義があるというような考え方なんです。

Fさんいかがでしょうか。

(F)

共学化して、その学びを機会が公平に平等になるっていうのは分かったんですけど、それによって別学の選択肢は潰れてしまうじゃないですか。それをなぜ別学の選択肢をなくして、その共学化して、学びの選択肢の機会をもっと公平に平等にするというのを選んだのかのその根拠が知りたい。別学・共学の選択肢と、共学化して学びの選択肢をその男女同じにしようっていうのの二つがあって、どうして共学化するということを選んだのかっていう理由とか根拠を教えてください。

(依田 高校改革統括監)

Fさんが言ってるのは、どうして県教育委員会が主体的に共学化を進めるということになったのかという質問でしょうか。

(F)

少し、考えます。

(依田 高校改革統括監)

あの議論をまたしながら、Fさん、いつでもいいからね。

【休憩】

(依田 高校改革統括監)

それでは、Cさんのお話だね。

もう一度、先ほどの話をしてもらっていいですか。

(C)

ちょっと感情的になりすぎてるなと思ったので、少しデメリットを踏まえての話も聞いていきたいと考えていて、今、県立高校は、税金からの運営になります。そこで浦和高校に女子が入れない、男子しか入れないという状況に関しては、その先ほどおっしゃっていた、能力に合う高校とか希望に合う高校っていうところには明らかに反することだと思います。そこを踏まえて、皆さんがなぜ共学反対、別学維持を論じているのかっていうのを少し聞いてみたく、話題を振っていただきたいなと思いました。

(O)

先ほど、Cさんが、医学部とか東大とかへの進学実績が、高い浦和高校に、女子が入れないのが、どうなのかなっていう話があったと思うんですけども、その理由で共学化っていうのは違うと思うんですよ。男女平等がっていう、理念的な問題だと、変わってくると思うんですけども、学校のカリキュラムって公立高校である以上は、教員の異動とかも、全部、県教育委員会が、管轄してるわけじゃないですか。その中で、浦和高校だけに、優秀な教員と言いますか、独特のカリキュラムだとか、そういうのを作ってるっていうわけじゃないと思うんですよ。どちらかという、優秀な生徒が入ってきてるから、優秀な大学に行っている、そういうことが大きいんじゃないかなって思ってるんですよ。

そこで公教育において、優秀な学校に女子が入れないという指摘は、違うんじゃないかなって思っている。

(J)

浦和高校は夜の 9 時頃まで、高校自体は開いていて、各自が勉強に励むことができる場を設けさせてもらっているっていうのが今の浦和高校となっていて、それがあっていうことは、浦和高校は一人一人が受験に対して努力をしようという意識があるからなのではないかなって思います。

受験は団体戦という言葉もありますが、最終的には一人で机に向かって解答を書くっていう、個人戦でもあると思うんですよ。その中でやはりこう一人一人の努力が、高校選択よりも一人一人がここに行きたい、だからこれぐらい勉強するんだっていうこの努力があってこそその大学合格ではないのかなって僕なりに考えていて、実際僕も高校受験がそうだったので、個人の努力があっての高校もしくは大学合格っていうふうな捉え方が一般的なのではないかなっていうふうに、僕なりに考えました。以上です。

(依田 高校改革統括監)

女子の話なので、女子にも話を聞いてみたいと思うけれども。意見述べてもらえる人いますか。

(K)

私の知り合いの方の話なんですけど、東大を目指してる子で、その子も女子なので、浦和高校とか東大実績がすごいある男子高校には入れないんですけども、その子なりに、一番の自分が目指すのに適したことが学べる場所を選択した結果、今、私から見たら、とても優秀な高校に入っているんですね。だから、何人かの方の意見にかぶってしまうかもなんですけど、実績の高い

高校が男子校で女子がそこに入れないからっていうので、共学化っていう意見は別に、大して関係がないんじゃないかなっていうふうに思いました。

女子は女子でも、女子校でもレベルが高いところは浦和一女とかもちろんありますし、実績が浦和高校に少し届いていないってだけで、別に目指してる人が多いよっていう学校は、女子校の中にもたくさんありますし、共学の中にもたくさんあるので、選択肢的に別に共学化っていうふうにそこでつなげる必要はないのではないかなと、私は思いました。

(依田 高校改革統括監)

ほかに女子の方はいかがですか。

逆に、女子校に男性が入れないということをどう思いますか。例えば、女子校の学校行事をやりたいという男子生徒がいたときにどう思いますか。

(K)

例えば、文化祭に来てもらって、それを自分の学校のイベントに取り込んでもらいたい。

学びたいことがあって、男子だから入れないっていうんだったら、共学化につなげるのは結構強引かなっていうふうに思うんですけど、確かにそういう意見がある場合には、こういうふうな意見交換会、それこそ学校内とかで設けて、あっちの学校ではこういうことやっていて、こっちの学校でもこれをやりたいですっていうことを話したら、共学化にしなくても別に、別学でもいいと思うんですね。うちの学校は女子校だから、男子校のことは分からないし、共学の男女の関わり方とかいうのは、中学校の時の考えで止まっているので、合っているかとか分からないんですけど、その分近くに共学校や男子校もあるので、文化祭とか遊びに行ったりして、話聞いたりすることも可能っていうのを友達から聞いたので、そういう場で自分の学校でやりたいこととかいうのを、積極的に生徒会に自分から伝えることができるんだったら、学校の人に提案してみたらいいのではないかと思います。

(D)

なぜ浦和高校ばかり、そんなに東大合格者出してるのかというのは、Jさんが言ってたとおり、9 時まで残れるっていうのもあるのかもしれないですけど、他校と比較したことがないので、そういうところは、県教育委員会の方がやりやすいのではないかなと思ってます。

あともし僕が女子だったら、どこの高校に行ってたかなっということを考えていて、多分性格が今のままなら、東大合格者数が多い所に行きたいなっていう感情になるのは頷けます。

(O)

さっき、女子校に入りたい、男子生徒っていう話はあったと思うんですけども、一つこれはどうなのかなって思うのがあって、普通科があれば、どの高校も理論上は全て同じ教育を提供できる訳じゃないですか。どこどこの高校だけにしかできない教育ってというのは、基本的にはないと思うんですよ。

例えば、鴻巣女子高校の保育科ですかね。これは男子校にも共学校にも存在しないわけで、女子しかいけない学科っていうようになってる。そういうのに関してはどうなのかなって思うことあります。

この前まで、常盤高校も看護科が女子校にしかなかったという状態だったので、最近、共学化されましたが、そういう点については少し考えていかなければならないのかなとあります。

Cさんとの質問についてですが、浦和高校で東大を目指す人が多いっていうのも多分合格者が多いって一つの要因ではないのかなっていうふうには考えていて、目指す人が多い分、その分受かる人もいるっていう、このような関係性があるからこそ多いのではないかなっていうふうには僕なりに考えています。だからその、目指す人が多いから、その分、受かる人も多いという考え方が正しいのではないかなと思っていて、だから浦和高校のみやっている、特別やっているものっていうのはおそらくないと思うんですよ。だから結局は、その目指す人が多いからっていう理由で多くなっているんじゃないかなっていうのも一つの要因ではないかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

Cさんに話を戻します。

(C)

今回の話題振りに関してはこれ私が思った訳ではなくて、一番初めのきっかけとしてあった話題だと思ったんですよ。苦情処理委員に入った話題として、浦和高校に女子が入れないってのがあって、そこで皆さんにお話しいただいて、とても参考になりました。

県教育委員会に対しましては、やはり別学校では、カリキュラム以外の課外活動という点で、少し特色が皆さんの学校で違いますので、そこは配慮する必要があると思うんですけども、カリキュラムに関しましては、先ほどおっしゃってた通り、県としては男女分けてるつもりはないという話ですので、そこを踏まえての議論をお願いしたいなと思っています。

(依田 高校改革統括監)

今、Oさんの方で鴻巣女子高校の保育科の話があったと思います。

県教育委員会としては、一人一人男子と女子を問わず、男女が共に自分の能力とその希望に応じた進路を選べるように、努力をしていくということを考えています。ただ、Oさんの話にあったように、完全に能力と希望に沿った選択肢を提供できているかというと、そこは努力の途中だ

と思っています。Cさんがおっしゃった、学びについては、おそらく男子校と女子校で均衡している地域が、ある程度はあるところはあると思うんですけども、学力以外のところにおいては、いろいろ学校によって特色があったりするということと、先ほどの学科についても、今、普通科でも、保育のことを学んだり、ほかに保育が学べる専門性のある学校がいくつかありますが、鴻巣女子ほど専門的に保育のことを学べる学校がないという意味では、完全に男女の機会が平等になってるわけではないということになります。そこは、引き続き努力する必要があると思っています。多分皆さんから反対論が出てくるところなんですけど、その努力の中で共学にしても別学にしても私たちは、その別学だから何も手つけませんとか、共学だから手付けますということではなくて、別学も共学も同じ土俵の上で、男女の教育機会の平等と、それぞれの希望と能力に合った学校が県内の地域で見て、できるように工夫をしていこうと考えていて、そのために県教育委員会が主体性を持つようにしたということなのです。各学校では自分の学校については一生懸命考えるけれども、隣の学校と比べてどうだとか、この地域の学校の中で自分の学校がどういう学びで、どうすればいいのかというところは、考えることができないので、そこは各学校にお任せするのではなく、県教育委員会が主体性を持って、その学校の再編整備を考えなければいけない。そのため、共学化についても主体性を持たせていただくと、昨年度、報告書で申し上げたところです。学びを変えなければいけないという意味では、新しい学校になっていただく可能性は共学校も別学校も両方あるということですね。そこは男女の教育機会の公平性・平等性というものは十分私たちの努力目標としては持っているという、そういう考え方です。

(E)

すみません、Cさんの件から少し離れますが、今回の意見交換会で自分の高校の生徒会であまり長時間かけられないので、事前に生徒会内でどのようなことを県教育委員会にしたいかというのを事前に話し合っております。

先ほども依田さんがおっしゃってくださったように我々の意見、反対の意見もしっかりと捉えて、その県の方にえっと反映させていただくという意見がありましたので、これまであまり意見が言われていないと思うので、生徒会として、意見を述べさせていただきます。

以下に述べる文章は生徒会内で議論しました。生徒会としての意見として述べさせていただくので、個人としてではなくて、生徒会として述べさせていただきます。よろしくお願いします。

昨年度出されました措置報告書には男女が互いに協力して学校生活に送ることは意義があるというふうにおっしゃっております。このように判断した根拠がそこにはあまり示されていません。我々別学校の生徒から見れば納得が少しいきませんでした。

また男女が互いに協力して学校生活を送ることに意義があるならば、合意を前提としない共学化の方針になるのかが不明です。少し重複する内容も含みますがよろしくお願いします。そ

ここで意見を述べさせていただきます。我々が不明であると考える根拠、原因は措置報告書において結果しか記載されていません。その結論に至った客観的根拠だったり、議論内容が提示されていないことに起因するのだと。我々生徒会は思いました。

判断材料として用いた根拠やデータと合わせて、結論に至った議事録、共学化関連の議事録の開示を我々は求めています。先ほどにもあったように、本日の意見交換会においては、様々な生徒が共学化に対する県の意向に対し、非常に多くの疑問点、また反対的な意見を抱いております。そこから我々には県教育委員会から十分な説明が果たされていないと感じるには十分であり、勧告書や報告書の中に、その結論に至る議事録だったり、そういう開示を求める行動は我々にとっても納得がいくものだ我々は思います。

加えてこれまでに質問があるようにアンケートを通して別学校のニーズがありますと判断できております。それなのになぜ共学化を推進しているのか、それに関係する話し合いだったり、議論の内容が我々にとってとても不明瞭である。いわばブラックボックスのようなものであり、議論の進行に問題があるのだと思っております。よって我々は透明性、また客観性を持たせて共学化に関する議論のやり直しを我々は提案いたします。

さらに、今後も別学校だったり、共学校関係なく、このような直接生徒の意見を受け止めるような意見交換会を実施することを望みます。今後ともよろしくお願いします。

要約しますと、以上の三点、結論に至った議事録や共学化関連の議事録の開示を報告書の中に同封してもらう。二点目に共学化に関する議論をもう一度、透明性だったり、客観性を持たせて我々が納得のいくような形で議論をやり直すということ。三点目にこのような今後も直接的に生徒から意見を取るような意見交換会を実施すること、このことを生徒会、また会長を代表して、生徒会から提案させていただきます。また、県教育委員会の方に伝えていただければ幸いです。よろしくお願いします。

(依田 高校改革統括監)

今、E さんの方から、生徒会からということでしたけど、意見をいただきました。時間も限られているので、ここで皆さんに最後、全員に今、E さんのようなものでも結構ですし、ほかでもいいです。意見なり、感想なりをお話いただきたいと思います。これまでお話されてない方もいるので、ぜひ話をしてほしいと思います。E さんはいいかな、今のお話で。

(E)

はい。生徒会としての意見でよろしくお願いします。

(依田 高校改革統括監)

それでは、Oさんから行こうか。

Oさんの、意見とか感想とかでいいので、一言ずつお願いします。

(O)

僕は共学化に関して思うのは、さっきも言ったように、鴻巣女子高校をみたいな特殊な事例はやっぱりある程度是正していく必要があると思うんですけども、普通科におきましては理論上は、別学校だろうと、共学校だろうと全て同じ教育を提供することが、県教育委員会の裁量次第でできると思ってんです。それができる以上は、別学校に対するニーズも一定あるわけですし、それを残していくっていう選択肢も十分にあるものじゃないかなと私は思っております。

また、彼らが言ったように、議論の透明化といいますか、そういうのもぜひお願いしたいですし、これからも、県教育委員会の方と直にお話できる場を、これから入ってくる生徒のためにも開催していただけると嬉しいです。

(N)

自分の高校は西部地区の方だったんで、なぜ南部地区の方にしたのかっていうと、南部地区の別学校さんがいろいろ考えてくれているのかなと思って。結果としてよかったと思います。

最初から最後まで報告書の透明性であったりとか、報告書関連の話が多かったと思います。私は報告書に対してあまり目を通していなかったのですが、先ほど 5 分間の休憩があったので、そこで目を通していただきました。これですと、共学化に関心のある人だけが、見るという形になってしまいますので、共学化に、少ししか関心がないような人でも見れるようなものをホームページなり簡単に、分かりやすいものをつけていただいてやっていただくのがいいのかなと思いました。ありがとうございました。

(M)

私は、提案、そして感想の順番に発言させていただきたいと思います。

まず、提案といたしましては、共学化をする際に、どのようなデータを基にして、共学化の必要があるのか、具体的な数値が用いられたデータをぜひご開示ください。

これが一つ目の提案です。

二つ目は先ほども言いました。共学化する際の施設改装費、これはいくらかかる予定なのか、円安円高ございますので、ぴったりという数字は出せないにしろ、およそどれでもいいです。円でもいいですし、どれぐらい今の現状でかかるのかというものを開示してください。

三つ目、予算がかからないように、今現状のある学校に新しい学部を追加するなどの考えは出たのか。はいか、いいえでこれは答えられると思うんで、これも開示をお願いいたします。

四つ目、共学化する際に、今、男子校、女子校に望んで行っている人たちの意見が踏み潰されてしまうということを考えたのかどうかお答えください。

以上のことを、開示、又は適切な処置で公開することを求めます。これが以上提案となります。

感想といたしましては、私は最初から一貫して、共学は反対でありましたし、ほかの高校の生徒会さんの意見なども聞いて、より一層共学化はしてはいけない、するのは適切ではないというものであると改めて判断いたしました。本日はありがとうございました。

(L)

私も反対の意見を持っていたのですが、ほかの方のようにすごい強い根拠があるという訳ではないのですが、別学で希望してる生徒が少しでもいるのなら、少数派の意見も大事にしてほしいなっていうのを思っていました。

感想としては、今回は意見を言うのではなくて、ほかの学校の生徒の話とか県教育委員会さんのお話とかを聞きたかったので、今回参加できてよかったと思います。ありがとうございます。

(K)

私が思っていた意見交換会とは、印象が始まった感じが違って、面食らったりしてたんですけど、ほかの学校の方、特に男子校の方の意見を聞く機会がなかなかないので、今回参加したことで、皆さんがどう考えているのかということを聞いたのはとても良かったと思いました。

高校選択っていうのは、中学受験していない人からしたら、最初の進路選択となることが多いと思うんです。その選択肢を共学化することで減らしてしまうっていうのはやっぱり悲しいなっていうふうに思いました。あとは、女子校出身の方、大人の方がどう思っているのかっていうのを、もう少し女性の方の大人の目線からの話も聞いてみたかったなというふうに思いました。

(依田 高校改革統括監)

それでは、女子校に勤務経験のある女性の職員から聞いてみようか。

(事務局)

私は女子校で教頭として勤務をさせていただきました。

皆さんの共学化アンケートの中にもいろいろ書かれていたと思うんですが、女性とだけというところで伸び伸びとですね、中学校時代に男子生徒とうまく馴染めなかったりとか、いろいろ嫌な思いをしたというような生徒さんも、自分なりの居場所というか、自分なりのそういったものを見つけて、ほかの生徒さんと、仲良くですね、やりたいことをこうやっていると、自分なりに活発に、中学までは人前でできるということができなかったけれど、そういうところも、非常にでき

たというようなお話も聞きました。女子校なりのその良さというか、そういった部分は、2年間勤務してる中で感じた部分があります。

一方で、共学校でも、教員として働いている部分もありますので、やはり女子と男子が切磋琢磨して、女子・男子だから言えないとか、女性だから言えないとか、そういうことではなくて、お互いの良さを認め合いながら、意見を出しつつ、例えば行事などとか協力をしてやったりですとか、あと、学習面においてもですね、どちらかということではなくて、お互いの良さをとか意見交換をしながら、やはり男女共同参画という視点で行けば、今後ですね、社会に出たときに男女ということも必要になりますので、そういった意味ですごく切磋琢磨しながら成長しているという部分もありますので、両方の高校でそれぞれにやはり良さがあるというところは私自身感じている部分があります。

(K)

ありがとうございます。

(J)

今日、お話をお伺いすることができて、県教育委員会の方では、やはりその学科の選択という面で、やはり共学を推進していくっていう考えはあの重々理解できました。

その一方で、別学校の人々は、理由は何にしろ、例えば中学校時代はほとんどの中学校が共学だと思うんですけど、そこでやはり女性と馴染めなかった、もしくは男性と馴染めなかった、そのため別学を強く希望するっていう人の声が同時に叶わなくなってしまうんじゃないかっていうことを私たちは懸念していて、そこに対しては、県教育委員会さんにも、やはりそこに対してもしっかりと目を向けてほしいなっていうことはあります。

僕の願いとしては、このような会をもう一度なり、これからもやはり設けていただいたり、後はまあ今回意見交換会という会議だったにも関わらず質問攻めになってしまったことっていうのも多々あったと思うので、質疑応答の会を別で儲けるっていう手も、選択肢としてはあるのではないかなっていうふうに、今日この会を通して深く考えさせられました。

あとは、僕の意見でいうと維持で、県教育委員会さんの考えていうと、変更だと思うんですけど、変更する側というものが変更するに当たってのメリット、こうだから変更したいです、でも、これをするに当たってデメリットが生まれてしまうんですよっていうのを、しっかりと私たちに公表するっていうのも、その変更する側の義務ではないのかなっていうふうには僕なりに考えていて、それが最終的には、こども・若者基本条例の第14条の理解促進、第13条の情報提供等につながるのではないかなと考えているので、アンケートの結果のみではなく、県教育委員会さんのご

意見というものを積極的にそれらの報告書、もしくはまた別の機会に開示していただくことを私たちは強く求めます。本当にこのような会を今日は開いていただき、ありがとうございました。

(I)

偏差値が高い高校ならではの進学の問題なども今回知れたのは良かったと思います。それでも男子・女子だから入れないということで困る人よりも、別学の良さに惹かれてわざわざ遠くや県外から通うって人もたくさんいるのが現状なので、そのような人がいるという事実や別学に行きたいという人の気持ちも尊重して欲しいと思っています。

今回参加して反対であることは変わりませんが、共学化の必要性も理解できましたし、ほかの高校の意見も聞けて、とても有意義な時間を過ごせたと思っています。ありがとうございました。

(H)

まずはこのような貴重な機会をありがとうございました。皆さんの話を伺って、女性だから男性だから、教育機会を失われるようなことはなくしていただけるようお願いいたします。

あと別学を選ぶ人たちの声も、これからも続けて聞きていただくようお願いいたします。

私自身、私が共学校から来たので、周りの人と言いますか、私の友達とかはすごくこの話題に関心が薄いんですね。ですから私がこのような機会をいただいて、このお話を持ち帰らせていただいて、より多くの人たちに、関心を持っていただけるよう努めさせていただきます。今回ありがとうございました。

(G)

今回の会を通して、今まで曖昧だった部分っていうのがすごい見えてきた。主な問題はやはり学科という部分と、個々の学校のそれ以外の特性という部分にあるっていうふうに、お見受けしたんですけど、常々思ってるというか、個人的に思ってることがあって、学校の個々の特性っていうのは、共学化したら、消えてしまうのではないかという非常な単純な話なんだと思ったんですよ。我々の学校で言ったら、非常にスポーツの行事が盛んで、そういう特色って結構知られてると思うんですけど、そういうところ共学化したら、一斉に消滅してしまう。それこそ、浦和高校に入りたい女子、そういった方々は、こういった特色に惹かれて目指すと思うんですが、こういった特色も全部、共学化してしまったら消えるわけで、そういった方々の男子校に入りたい、浦和高校に入りたいという動機も、その瞬間に、意味をなさなくなってしまうというか。本末転倒というか、そもそもこれは成立していないことなのではないかと僕は考えました。これは非常に、僕の単純な考えなので一斉に共学化ってのは、やはり早計なのではないかと思いました。

あとは、私は、来年選挙権を得るんですけど、我々はまだ子供なわけで、意見を伝えられる場ってというのが、特に行政に意見を伝えられる場は非常に少ない。そういった我々の意見を反映してほしいというか、聞いていただいてるっていうのは非常に伝わったんですが、聞いて、噛み砕くプロセス、流れっていうのも、少し不透明なところがあるかなと思ったので、そういったところの開示、ひいては積極的な反映っていうのもより一層強くお願いしたいなと思いました。今回はありがとうございました。

(F)

今回はありがとうございました。先ほど質問が終わってしまったので、また次回の意見交換会を楽しみに待ってます。あともうちょっと時間長く設定しただけなら嬉しいです。ありがとうございました。

(E)

先ほど生徒会としての意見を述べたので、私の個人の意見をお願いします。僕は先ほど言ったように、県外から中学校の時に受検を決めて、とてもきつい思いをしました。本当に大変でした。やっぱり共学化してほしいっていう思いもありますし、男子校に 3 年間通ってこの報告書だったり、いろいろ目通したんですけど、その議論の進め方において、例えば皆さんも物を買う時とかあるじゃないですか。それでメリットだったり、デメリットがあったり、そういう部分を比較して物とか買ったりとか、今後の大きな選択肢とかやと思うんです。それで、今回の埼玉県の別学校の共学化っていうのは、メリットとデメリットを比べて、メリットが明らかに小さい。デメリットがものすごく大きい、だから今後の社会のあり方的にもこれを改善しなければまずいよねっていうのがちゃんと客観的なデータだったり、数値だったり、そういうのに示されていれば我々も今後、社会を見たらやっていかなければいけないねというのは納得できると思うんですけど、現に今違う。メリット、デメリットがわからないという。どっちかっていうと、我々は今の埼玉だったり、埼玉は女子校、男子校、共学校っていう、三つの選択肢があるわけで、もし全部共学化してしまったら、もうやったら戻れない。なので今回のその判断の比較で当たるそのデメリットっていう部分をより慎重に考えなければいけないと思うんですよ。

今回もアンケートを通して、我々の意見を聞く会としてこのように設けてくださいましたが、やはり判断材料として比較するっていうのがとても大切だと思います。こういう我々の意見だったり、なので、今後とも共学化する、しないっていうことも大事ですけど、議論の進め方において比較っていうそのメリットがあるデメリットがある、デメリットがとても大きいから、今後の社会的にも変えないと大変だよ、駄目だよっていうのをしっかり我々に示してくれば、我々も納

得いくような形でいくと思います。現在、我々は納得してないから、こういうふうに意見述べてると思います。

私も個人的に述べたいのが、僕は自分の高校に通ってて、その生徒会長になれたことに、本当に心から誇りに思っていますで、その大好きな高校がなくなるっていうのは本当に辛いことなので、共学化だったり、その伝統だったりの良さがなくなってしまうのであったら、私は今後もしっかりと意見を交換して取り組んでいこうと思います。すみません、長くなりました。ありがとうございました。

(D)

まずは、今日の内容を、教育委員さんの方に伝えられるようお願いします。

そういえば、今回、少子化の話が出なかったなっても思ひまして、そういうその辺りのお話も質問も議論もたくさんしたいので、また設けていただくか、それともあの生徒からお願いして設けていただくかというふうに、またお話したいと思いますので、その時にはよろしくお願いします。

(C)

このような意見交換会を開催頂きとてもありがたいなと思ってるんですけど、近県の例を見ますと、やはり共学化という波は押し寄せてきていますね。そのような中で、こういうふうに主体的ということで、議論する余地をいただけてるってことにはすごく感謝しなければいけないなと感じています。

我々の OB も活動してるんですけど、その意見、我々が OB の意見を話すのではなくて、もう少し、我々として高校生としてピュアな意見をもう少し届けられたらなと思い、努力していきなと感じました。あまり感情的な話をしていなかったんですが、やはり、自分の高校は男子校で今まで脈々と受け継がれた伝統があります。そのような男子校としての伝統が共学化で失われてしまうというのは、感情的にはすごく悲しいことですので、そういうことも鑑みて、慎重に議論して、共学化にするにせよ、別学を維持するにせよ、慎重に議論していただきたいなと感じています。ありがとうございました。

(B)

最初だいが混乱させてしまったんですけども、その意見の聞き方として、話が上がった話題から意見を聞いていくというやり方、話題が何でもいいという点でかなり面白いものかなとは思っているんですけども、具体的な根拠が上がらなかったりとか、深い議論にならないといった点から、県教育委員会の人に意見を聞いて持って行った時に、何かやろうとしている施策について結論が変わるほどの力がないなというのを感じています。なので、今までいろいろな意見交換会にできるだけ参加してきましたけれども、今まで結果は変わってきてない訳ですから、主体的

に共学化という結論に関しては、選挙権のない我々にとっては、何もしようがないといったような無力さをだいに感じています。

今までの意見交換会が、ほとんど質問会でしたので、そういう感じで来るかなと思ったんですけど、ほかに似たような感じの人もいたと思うんですけど、その想定で来てしまって、結果、場を混乱させてしまって、意見を話した人が話せなかったということになってしまったと思うので、そこは申し訳ないと思ってます。すみませんでした。

(A)

先ほど E さんが「生徒会として」っておっしゃったんですけど、「生徒会執行部として」ということですか。

(E)

そうです。すみません。誤解がありました。生徒の意見を全部総括して我々が代表してということではなくて、生徒会の組織内として議論した結果として、生徒会内の代表としてやりました。

(A)

そこが気になったので聞かせてもらいました。ありがとうございました。

個人的には県教育委員会が主体的に共学化推進するっていう方針については、なんとなく、どうしてそういう結論になったのかっていうのは理解できるような感じがしていますし、県全体で少子化がこれから一気に進んでいくということを考えれば、県教育委員会がいわばこう中央集権的に物事を決めていくっていうことも、方針としては理解できる部分かなというふうには個人的には思っています。

ただ、「はい、決まりました。何年後から共学化です」と言われても、受け取りにくい部分っていうのはあると思うので、どういう形でそういうふうに進んでいったのかっていうところが、こうやはりある程度分かるとか、後はこういった形で県教育委員会の側がどういうことを考えているのかっていうことを示していただくっていうようなことを、繰り返しながら話を進めていくっていうことが、県教育委員会の信頼にもつながると思いますし、私たちがそのようになりますとなったときに、受け入れやすくなるかどうかというのが変わってくると思うので、こういった直接が一番嬉しいかなと思うんですけど、そういったやりとりっていうものが今後も続いていくといいなというふうに個人的に思っています。

個人的には別学校には、今の社会で果たせる役割って残ってんじゃないかなって思っているのでもあ、残ってってくれたら嬉しいんですけど、仮にそうでないことを最終的に県教育委員会が目指しているとしても、そこについては、生徒側の思いとか、そういうものを、私は卒業してしまいますが、生徒側の思いも理解する努力を県教育委員会の側が続けていただけたら大変嬉し

いなというふうに思っております。今回はこういった会を開いていただきましてありがとうございました。

(依田 高校改革統括監)

時間がもう10分ほど過ぎました。進行が悪くて申し訳ございません。私が最後に話をさせていただきます。

先ほど D さんから話がありましたけれども、今日皆さんからいただいた意見については、私の主観を交えずに教育委員にしっかりお伝えします。また、今日、いろいろ皆さんからいただいたことについて、この場では、時間の関係もあって、一つ一つ細かく答えることができなかったことがたくさんあると思います。

一つ一つ本当はじっくりとそれについてご質問に答えるなり、またもう少し質問の意図みたいなものを細かく伺った上で、お話ししなければいけなかったこともたくさんあると思います。

そうしたことについては、この後、よろしければ、私のところにいらっしゃっていただいても構いませんし、いつでも県教育委員会は開かれておりますので、個人でも結構ですし、お仲間と一緒にでも結構ですから、もし、直接お話がしたいということがあれば、話し合いはいつでも持たせていただきます。

また、今日なかなか、お話ができなかった人がいると思います。本当はもうちょっとこんな話があったってこともあるかもしれません。皆さんからあったように、意見交換会について今後も実施してほしいというお話がありましたので、そういったことも、県教育委員会の中で共有いたします。

今日はいろいろな意見を聞けて、大変嬉しく思いました。私の方も、皆さんの意見を聞いて、理解を深めることができました。本日は大変ありがとうございました。